

2023年度 自己評価書

1 学校園経営計画

別紙のとおり

2 自己評価

領域	重点目標・具体的な取り組み	達成状況・成果と課題	評価	今後の改善方策	学校関係者評価を踏まえた今後の改善方策
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○重点目標「何よりも安全を最優先に」を基本姿勢に、安全管理の徹底をはかった。</li> <li>○大学と一体となって、責任を持って附属学校の使命である研究・実習を果たすように努力する特に、幼小中連携研究，自己実現活動を中心とした幼小校内研究を充実させる。</li> </ul>	<p>新型コロナの5類への移行に伴い、以下の対応を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○入学式の参列を5・6年生とした。</li> <li>○1年生を迎える会のオンライン開催。</li> <li>○授業参観について、4月は人数を2名に限定。2月は制限なし。</li> <li>○全校保護者会の中止</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童及び保護者からのアンケート調査の両面から、課題を絞って取り組んでいく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼児児童の実態把握のためにも、SC,SSWとの連携を計画的に行っていく。</li> <li>○近隣町会長連絡協議会を年1回実施していく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者や地域住民の方々からの声を学校運営に生かす。</li> <li>○子ども家庭支援センターや児童相談所などの外部機関と連携し児童・保護者対応を迅速に行う</li> <li>○子育てトークと個別相談を計画的に実施する。スクールカウンセラーや教育支援員と連携した支援体制を確立する。(幼)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○竹園会委員総会関係の文書開催</li> <li>○日光林間学園の開催 夏の日光は2泊から3泊へ</li> <li>○下校庭でキッズフェスティバルの実施 (幼・1・2年)</li> <li>○竹の子祭(3～6年)の実施</li> <li>○水泳学習を全学年学年単位で実施</li> <li>○竹早祭の参加人数を制限なしに。</li> <li>○卒業式の参列を3年生以上に。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○各地区の子家センと確実に連携がとれるような体制を整えていく</li> </ul>

<p>教育活動</p>	<p>◎子ども自身の願いや思いを大切に活動創造・工夫する。(重点目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○幼小中連携の教育を大事にする</li> <li>○竹早の「スタンダート」を大切にしていく。</li> <li>○教育課程特例校として、独自の教育課程の開発に取り組む。</li> <li>○異年齢集団による自治的な活動を大事にする。</li> <li>○コーディネーター、校内委員会を中心に特別支援の教育環境を整備する。</li> <li>○小学校教育への連続性を踏まえた教育実践を行う(幼)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度は竹早園舎・竹早小の大きな特徴である縦割り活動を実施することができ、大きな成果を得ることができた。</li> <li>○遠足・校外学習についてはバスだけでなく、電車移動を認めたことで、昨年以上に積極的に行うことができた。</li> <li>○給食・弁当の黙食が解除され、子どもたちのストレスがかなり緩和された。家庭の方針での自宅待機はなく、不登校についても現在認められていない。</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師が子ども一人一人の思いに寄り添いながらも、子ども自身が仲間の気持ちを思いやれるような機会をとらえ、支援・指導していく方策を研究していく。</li> <li>○特別支援教育については、今後はさらに個々のケースに応じて保護者、児童に寄り添い進めていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行事の在り方について、昨年度の実態を踏まえてよりよい計画を検討していきたい。</li> <li>○自己実現活動の可能性を広げていくための方策を模索していきたい。</li> </ul>
<p>研究活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎幼小一貫、幼小中連携の教育を大切に(重点目標)</li> <li>○教育課程特例校である「自己実現活動」の校内研を通し、授業を見取る観点を明確にし、分析し、授業改善を図る。</li> <li>○小金井園舎と情報を交換し、今日的な課題や昨年度の反省を生かした教育実習プログラムを立案し、実践を行う。(幼)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼小中連携研究「未来の学校プロジェクト」公開研究会を2024年1月20日に対面で開催し、440名の参加があった。</li> <li>○文京区教育委員会主催の3年次教員研修をはじめとする講師の派遣を例年通り行うことができた。</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業実践を通して「自己実現活動」の子どもたちの活動での試行錯誤を学びに変えられるような教材研究を深めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大学・企業・行政との連携を継続しながら、新たな研究体制を検討していきたい。</li> </ul>

<p>学生の教育・支援活動</p>	<p>◎学生に教育実習の場を提供し、教員として優れた資質をもった人材を育成する。 ○子ども一人一人が課題を自分のものにする過程を大切に、急かせることなく、丁寧に子どもに寄り添う事の大切さを指導する。</p>	<p>○実習生の控え室を各教室に戻し、給食も子どもたちと一緒に食べる形に戻した。 9月10月の必修、2月の選択・補充実習ともに無事に終えることができた。</p>	<p>A</p>	<p>○今後も学生が日常的に関わることのできる教育現場であるよう、支援員として、学生の受け入れ体制を整備する。</p>	<p>○学生の支援体制を今後も継続していく。</p>
<p>社会貢献活動</p>	<p>◎附属学校の使命である地域の拠点校として特に、文京区教育委員会との連携を密にしていく。(重点目標) ○国内外の視察・参観者の受け入れを積極的に行う。</p>	<p>○「未来の学校プロジェクト」の一環として、ランチルームの一部をコワーキングスペースを兼ねた共創空間を設定し、竹園会、竹早会、同窓会、大学、連携企業などの学校関係者の活用を進めている。</p>	<p>A</p>	<p>○今後も、地域のモデル校としての役割を果たし、地域教育の発展に貢献していく。</p>	<p>○今後も積極的に外部へ活動を公開することによって、更に社会貢献活動を行う。</p>

3 その他の特記事項  
特になし